

平成 27 年度

事業所名 : グループホーム いちよの木

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370400178		
法人名	社会福祉法人憲幸会		
事業所名	グループホームいちよの木		
所在地	岩手県奥州市水沢区佐倉河字十日市85		
自己評価作成日	平成 27年 12月 11日	評価結果市町村受理日	平成28年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=0370400178-00&PrefCd=03&VersionCd=02
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成 27年 12月 21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員の意欲向上の為の法人内外の研修会への参加により、職員の学習意欲も高まっている。資格習得を目指す職員もいる。また演題発表の機会も常に視野に入れ緊張感を持つような工夫もしている。いちよの木は家庭に近い環境で自然体での生活を提供しているし、個別のニーズに対応する考えは常に持っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新法人への移行を踏まえて、職員間で話し合い「その人の望む生活、その人らしさを大切にしたい関わりを実践する」と確認し合い、その実現に向けて利用者個々に応じたゆったりとした、生きがいのある生活等を送れるよう職員間で共有しながら取り組んでいる。また日常生活や行動にも変化が見られ、職員提案でホールのテーブルに花を飾ったり、茶器とポットを置きいつでも誰でも自由にお茶を飲めるようなところ、利用者がホールに集まりお茶を飲みながら利用者同士会話をするなど、明るい雰囲気が見られる。一方、課題もありその道程に厳しいものがあるが、殆どの職員と馴染みの関係にあり安心感も見られるほか、職員も意欲を持って取り組んでおり、運営も以前のように管理者の指示に基づく対応ではなく、スタッフが主体的に考え、皆と話し合いながら新たな目標の実践に向かって真摯に取り組むその成果も出ており、いずれは佐倉河地域にとって大切な社会資源として力が発揮され、今後が期待されるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

【評価機関:特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会】

事業所名 : グループホーム いちようの木

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々のミーティング、会議等で話し合い確認しあっている。	法人の変更を機に、職員間で話し合い「その人の望む生活、その人らしさを大切にしたい関わりを実践する」と確認し合い、その実現に向けて利用者個々に応じたゆったりとした、生きがいのある、最後まで安心できる生活等を送れるよう実践的に取り組んでいる。	法人変更の2年目を向かえ、これからが「いちようの木」の新たに目指す風土、ホームの家風を作り上げていく貴重な機会と考えて、引き続き「いちようの木」ならではの取組みの構築に期待する。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会への参加、地元振興会の会員になる、佐倉河地域の一員として参画し、交流している。さくらの湯は散歩コースである。	地域の一員として町内会や地元振興会に加入し、地域の文化祭にも参画などしたりして交流を深めているほか、事業所主催の秋刀魚祭りなどを通じて地域との交流を図っている。また市や地域の協力を得ながら、「佐倉河地区徘徊模擬訓練」を実施し、認知症の理解に一役を担っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	在宅支援センター職員が家族介護者教室や運営推進会議等で、民生委員の参加を得ている。保育園児を対象に遊びを通じて触れあいの機会を設けている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	第三者委員や民生委員、包括支援センター職員の参加により、実践状況を見ていただき、ご意見を頂いている。	会議ではDVD映像による防火安全対策の学習をしながら日頃の訓練の在り方や、地域の支援、協力の大切さを確認したほか、看取りの取組みに関する意見交換が行なわれ、ホームへの期待が寄せられている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	在宅支援センター活動を通して市町村との情報交換も密である。運営推進会議には包括支援センター職員の参加がある。介護保険認定更新時は市町村職員が訪問調査するので、介護の実情を見て頂く良い機会となっている。	市が行なう地域ケア会議等の場を通じて指導、助言を得ているほか、市の介護相談員の相談受け普及気づかない点の助言を頂き活かしている。なお、市の認知症カフェや青空レストランに参加し利用者の活動の場をホームから地域へ広げる機会としている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内で身体拘束廃止の勉強会を行っている。玄関の施錠に関しては行っていない。	法人が変わる前は様々の理由をして正面玄関の施錠をすることも多かったが、現在は、玄関の施錠に関しては行なってはいないとしている。なお、新たな法人になってからは身体拘束をしないことを方針とし、法人勉強会を行いスタッフ全員が身体拘束をしない理解を深めているとしている。	「ふっと家に帰りたい」「外の空気を吸いたい」「草取りをしたい」等とふっと思い、行動に出ることは常にあり得る。これら行動や表情から気づき(状態把握)を全職員が学習、理解し、見守りや対応方法の次の判断に繋げる取組みに期待する。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内定例会議等で話し合う機会を設けて実践に繋げている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会の参加等で学ぶ機会を設けているが、現在は後見人制度を利用している利用者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書で説明し、さらに重要事項で理解を深めて頂いている。入居時調査票の記入も家族にお願いし想いの共有化を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項で説明しているほか、運営推進会議やご家族来苑時に意見要望を聞く機会を設けている。	利用者と家族が直接会話できるよう新たに電話回線を設けたことで喜ばれている。また、市の介護相談員の時々の来訪により利用者の相談内容を聞きそれを反映するほか、運営推進会議での家族の意見や、ケアプラン内容について話し合う際にも意見・要望を聞くよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングや部署会議、毎月の全体会議等で意見や提案の機会を設けている。	毎日のミーティングや、毎月の全体会議等では様々な意見や提案等が出されている。例えば、ベランダの段差改善、ホールのテーブルへの生花をしたり、いつでもお茶が飲めるよう茶器やポットを設置、掲示板の設置、肘掛椅子の設置など、利用者目線からの意見が見られる。	以前に比べ利用者と職員、職員間のコミュニケーションが多くなっており、取り組みにも積極的姿勢が窺われ、底上げ意識の高まりから大きな信頼へとつながっており、引き続き、利用者とは良く見聞きし、話し合い、分かり合うことを期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップ制度に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格習得、法人内外の研修を受ける機会を設けている。演題発表は総合的な研修の場となっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	家族介護教室や行事、夏祭りなどの情報を発信し、同業者の参加を呼びかけ、交流の機会を作り積極的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族や病院等からの情報を元に、シートを利用し本人との会話などで関わりを持つことにより信頼関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会等で利用者の様子を伝えたり、電話で様子を伝え関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族及び担当ケアマネから聞き取りをし、長期支援を視野に入れ何の支援が必要なのか話し合っケアプランに生かしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症対応型共同生活介護について職員は共通理解しており、共に暮らすことから生じる多くの学びを大切にしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事や家族介護者教室、運営推進会議などを通して、認知症介護は家族とともに築いていくものであること、私たち介護者側には家族の支えが必要であることを伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前は出来ていたが家族の理解も得られず、実施に至っていない。	昔、馴染みであった友人や、家族も含め徐々に行き来が疎遠となっており、またキーパーソンも孫や甥・姪等に代わりこのことが家族の協力や理解を難しくしている。その中で近隣の方々や、来訪してくれる美容室の方が唯一の馴染みとなっている。今後は、ボランティアや買い物などを通じた新たな馴染みの構築を図りたいとしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会わない利用者間のトラブルを未然に防ぐための職員の配慮が常にされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時は定期的にお見舞いし、亡くなった時には職員がお別れに行っている。家族から電話で相談を受けた時は相談にのっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始に際し、ご本人に必ず会い、お話しをし、さらにご家族に入居時調査票を記入して頂いております。ケアプランを作成する際に本人にアセスメントし思いや意向の把握に努めています。	利用者の意向や希望は「私の姿と気持ちシート」を活用し利用者のできること・できないことや、暮らしの希望や思いなどを聞いているほか、散歩時や入浴時等での会話や、表情や動作などから気づいたことを把握し、共有を図りその意向の反映に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時調査票の記入や本人、家族に聞き取りを行い、これまでの生活の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りやカンファを通じて、お一人お一人の心身の状態を報告し合い、意見を出し合って検討している。職員間での情報の交換があり、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日のミーティングや部署会議にて、現在の状態を報告し合い、意見を出し合って検討している。ご家族の面会時情報交換を行っている。	ミーティングでは利用者個々の体調や生活の変化などの情報交換をしプラン変更の必要性等を見極めているが、通常の介護計画は、3ヶ月毎のモニタリング結果や、普段の会話等から得た本人の思い、家族の意向、居室担当の気づき等を参考に部署会議で話し合いプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の行動、言葉、そのことについて職員の関わりを記入できる個別の支援記録を活用しているが、口頭での引継ぎが多く繋がる情報、細やかな他職員の気づきが分からない現状である。ケアチェック表も作成し活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイで実施されるイベントに参加したり、隣接している介護保険外ホテル(ももとせ)のイベントに参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要性を感じてはいるが、実施には至っていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居に際し、かかりつけ医を変えてもらったことは無い。緊急時には、連携医療機関であるまごころ病院の協力を頂いている。受診時には医療機関に情報を伝え適切な診療を受けられるよう支援している。	医療受診は利用者のかかりつけ医で、利用の際は家族の同行をお願いし、対応困難のときは職員が対応している。協力医療機関には、往診をしてくれる「まごころ病院」にお願いし安心に繋げている。なお、通院する際、適切な医療を受け易くするため、体調など必要な情報を提供している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人看護師による週1回の健康チェックの際に、利用者の体調など相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院受診時は、直近の健康情報を病院、ご家族にきちんと伝えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族からの要望もあり実施に向けて取り組む予定でしたが、実際にはターミナルケアの実施には至らなかった。	看取りの対応指針は策定していないが、家族の要望等も踏まえ、看取りや重度化の対応を受け入れる方針である。今後は、受け入れ態勢の強化を図るための職員学習を図りたいとしている。なお、法人の看護師が週1回来訪し健康面からチェックを行い安心に繋げている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	体温計、血圧計、パルスオキシメーター等を常備し、急変時のデータ採取、その後の連絡手順等トレーニングしている。心肺蘇生、AEDの研修も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体で避難訓練、地震想定訓練、夜間想定訓練等を行っている。また運営推進会議で地域の区長さんが中心となり、災害時には当法人への支援を優先的にしようという動きになったが、具体的な事はまだ決まっていない現状にある。	避難訓練や夜間想定訓練等は、併設する他のグループホームやデイサービス等、法人全体で実施している。なお、夜間時は職員が1人勤務の状況を踏まえると、地域(自治会)の支援協力を必要とし、運営推進会議を通じて地域に協力をお願いしている。	当法人の事業所は2つのグループホームのほか、デイサービスなどが一体的に立地し建物等が複雑に絡み合っているため、日頃から様々な想定した訓練のほか、地域住民の協力・支援が必要なことから、その視点からの取組みに期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居前調査票によって、お一人おひとりが、何に傷つくのか、何を誇りとしているのかなどを把握するよう努め、入居後も検討を重ね、情報を職員皆で共有している。毎朝きちんと一人ひとりと挨拶しております。	利用者個々の尊厳を大切に考えるのもと、特に言葉のかけ方・使い方、名前の呼び方に配慮している。なお、毎日の挨拶を大切に、「ありがとう」の感謝の気持ちを示すことで和む日々を過ごせるようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り自己選択をして頂くようにしているが、中核症状の出現により出来ない人達には、会話の中から思いを感じ取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活に決まり事を作らず、その日の状況により柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時は本人に着替えを用意して頂いているし、毎朝本人に整髪や髭剃りをして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、味はもちろんの事、目でも楽しむものと思っているので、色のバランス、盛り付けを工夫しながら提供しています。食後は利用者さんと冗談を言いながら片づけを行っています。	献立は、利用者の意見を聞きながらスタッフが作っている。食材の買出しは利用者と一緒にスーパー等に出掛け、利用者が食べたいものを購入している。調理はスタッフがこなしているが、盛り付けや片付けは利用者の役割となっている。なお、糖尿病の利用者がいることから、健康管理を配慮して午前中のおやつをなくしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスをかんがえながら、食事を作っています。塩分、糖質等も出来るだけ少なめに調整するよう努力し、食事を提供していきたいと思っております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は歯磨きやうがいを励行している。声かけでの促しとなっているので徹底には至っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の意向を尊重し、自立支援が行われていると思います。オムツの方はいません。ほとんどの方がトイレを使用しています。	本人が最も気に入る排泄が上手くいくことで自信の回復に繋がるとの考えのもとで自立に向けた支援を行なった結果、トイレ誘導をしている利用者でおむつ使用者はいない。なお、現在はトイレ誘導の必要な方は1名のみで、ポータブルトイレを利用する方もいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握し、食材にはきのこやヨーグルトの摂取に努めている。基本的にはお薬の方が多く、水分や適度な運動等で予防を考えています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に、入浴は毎日行っている。促しと本人意向により実施している。入浴を嫌がる方もタイミングや気の合う職員が対応するようにしています。	毎日の入浴を希望する利用者には、健康状態を確認チェックしながら毎日の入浴支援をしているほか、中には2日1回の入浴希望の方もいる。入浴時は職員と利用者が会話できる大切な機会と捉え、コミュニケーションを深めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に活動して頂くようにしているので、安心して良く眠れていると思います。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬の情報を保管し、薬は一人ひとり写真付きのケースに保管している。服薬支援の前に職員間で複数確認を励行している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前の情報や日々の生活の中で、一人ひとりに合った役割、楽しい事を見つけ、支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来るだけ希望に沿うよう努めています。法人の庭がとても広く自然が一杯なので散歩に連れ出したり、ベランダでの日光浴、買い物のお手伝いをお願いしたりしている。ドライブ等も可能な限り行っている。	お天気の良い日は、近くの温泉の「さくらの湯」に出かけたり、段差改修したベランダに出て日光浴をしているほか、外の刺激や季節感を味わうため、花見や買い物に出かけたり、平泉にアイスを食べに出かけたりと、利用者の意向に沿って出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っている方は事務所で預かり、使いたい時に事務所に行き貰って買い物に出かけている。金銭出納帳を利用し定期的に確認をして頂いている。ご家族の理解と、また本人所持している方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から電話を掛けることはほとんど無い。希望があれば支援する体制はある。現在は、ご家族さんから電話があったり、こちらから電話した時に、ご本人に代わって話をしたりして頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	開放的なキッチンからは、煮炊きの音や匂いが漂ってくる。風呂場は古くはなつたが家庭的な大きさで、外光が入り。気持ち良く入浴できる。家具が居心地良くセッティングされている。	法人変更を機に屋根の吹き替えやクロス張りを変えて温かみのある雰囲気を出したり、エアコンを設置し快適環境の確保を図っている。なお、職員提案によりテーブルには花が飾られ、いつでもお茶を自由に飲めるよう茶器やポットを用意するなど、皆が集まり楽しく寛げるよう雰囲気がつられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分専用の椅子があり、テレビ前のソファはくつろぎスペースである。テラスも自由に使っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お部屋づくりにまったく興味を持たないご家族がいるものの、何度も説明を重ね、居心地の良い空間作りをお願いしている。居室をカーテンにした事により、よりよい環境になったと思います。	居室にもカーテンを配備したことで居室の雰囲気が大きく変わっている。また、男性利用者が多く、家族も部屋づくりにはあまり関心を示さなかったため、スタッフから整理整頓と掃除実施を呼び掛けたところ、手伝うこともあるが、利用者自ら後片付けするようになっている。また、利用者同士で居室訪問を行い一緒にテレビを見ているときもある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お一人おひとりに合わせて安全で安心できる環境を作るためセンター方式シートに取り組みたいと考えている。		